

令和 7 年度 堺市障害者自立支援協議会

第 4 回 強度行動障害支援部会 議事概要

日時 令和 8 年 3 月 5 日（木） 10：00～11：10
場所 堺市役所本庁地下 1 階 大会議室[東側]
出席者 林（施設部会）、植田（関西大学）、吉川（アプリコット堺）、陳（コスモス）、木村（こころの窓）、
藤原（障友会）、平野・小林（北摂杉の子会）、石橋（北区基幹）、河瀬（地域福祉課）、
三枝・川崎（障害者更生相談所）、森（障害支援課）
欠席者 伊名岡（北摂杉の子会）
傍聴 2 名

1. 強度行動障害支援体制整備事業

(1) 令和 7 年度下半期の経過報告 資料 1-1 資料 1-2

（専門的法人）令和 7 年度のスケジュールは 2 月末で終了。標準的な支援状況表のグラフの見方について、棒グラフは自己評価で、青色が R7 年 8 月の評価、オレンジ色が R8 年 1 月の評価、グレーが今年度の目標。折れ線グラフはコンサルタントの評価で、緑色が R7 年 8 月の評価、紫色が R8 年 1 月の評価。コンサルタントの評価は、事業所ごとには判断しづらいので、法人ごとで同じ評価としている。

〈法人参加〉

コスモス

半年～1 年でケースを変えて実施している。

標準的な支援状況表は、概ね上昇傾向で、特にコンサルタントの評価の点数が上がっている。

職員アンケートは、コアメンバーとそれ以外の職員で分けて調査している。法人全体で 398 名に調査された。コアメンバーの満足度があがっている点が注目される。

利用者評価に関しては、同じ点数であっても備考の記載内容から効果が確認できる項目もある。今回から評価開始となったケースは今後経過を見ていく。

こころの窓

利用者をアセスメントし支援ツールまでを作る、とれとれ研修を実施した。

標準的な支援状況表では、表出的支援が大幅に減少している点については、一人の方の点数が反映された結果である。

職員アンケートは、全体的に平均値が上昇している。

利用者評価では、2 人とも点数は増えているが、新たな行動が出てきている一方で、無くなっている行動もある。

障友会

初めは悩まれていたが、皆で取り組めるようになってきた。

標準的な支援状況表では、自己評価とコンサルタントの評価も順調に上昇している。

職員アンケートでは、コアメンバーの点数が上がっており、特に「行動障がいや、自閉症の理解」の項目が上昇している。

利用者評価は、点数だけを見ると増えている部分もあるが、点数には表れない部分に変化が見られる。

〈個人参加〉

はぴな コアメンバー以外の職員の評価が上がっている。

ケアサポートしのめ およそ横ばいで推移している。

ヴァンサンクつじ コアメンバーの評価が高く、コアメンバー以外の職員の平均値も上がっている。

グループホームドーナツ およそ横ばいで推移している。

全体的に、支援者目線から利用者目線が進んできた。支援結果にも表れてきており、支援の専門性や満足度も上がってきた。

- ・（専門的法人）自身は障友会のコンサルタントを担当している。コアメンバーが若手で、利用者の特性理解を中心に意識してきた中で、評価項目の点数にも表れてきた。非常に熱心に取り組んでおり、初めはパンク気味だと言っていたが、これから実践にも繋がると思う。

（2）地域向け実践報告会の実施報告 資料 2

（事務局）資料 2 に沿って説明。基調講演では、厚生労働省の発達障害施策調整官の山根氏より、国で実施している支援施策などを幅広く説明。事例発表では、各参画法人より、本人理解を深めるアセスメントの工夫や、チーム支援の取組、環境調整等によりどのような変化があったかなどについて報告。意見交換では、山根調整官よりコアメンバーへ、ガッツポーズが出た瞬間と、胸に刺さった言葉について質問があり、「利用者目線を意識でき支援に繋がったこと」「本人の特性からくるものという気づきを教えてくれた」などの答えがあった。

〈参画法人より報告等〉

- ・（委員）報告会において他法人の取組を聴いて自身の励みになった。利用者や職員の変化について、あるケースではコンサルテーション後、特定のこだわりが軽減した一方で、新たなこだわりが表出した。これに対し、コンサルテーションで得た学びを活かし、本人の背景を考えた仮説を設定することで、効果的な支援に繋げることができた。あわせて現場職員との対話の重要性を再確認した。アセスメントに基づいてチームとして支援を進められると良い。
- ・（委員）コアメンバーが自ら考える力が育っており、支援における視点をどこに置くか、利用者を中心に据える姿勢に立ち返ることができるようになってきている。コアメンバー以外の職員とも話し合えるようになり、PDCA サイクルを回すことができるようになってきた。改めて、行動障害のある方への支援で何が大切かを他の支援者に伝えていこう、大事な基本を振り返っていこうと思っている。課題として、自分たちの支援は一定形になってきているものの、人に伝える術をまだ持てておらず、もっと学ばないといけない。実践報告会も人に伝える練習になった。
- ・（委員）コンサルテーションについては、経験の浅い職員も加わって始めた。支援において何が大切かを学び、ようやくスタートラインに立ったと思う。利用者の行動面に着目していた職員が、その要因として自分たちの声掛けが影響している可能性に気づけたのは良かった。「根拠のある支援」が合言葉のようになっている。一方で、正解を求め、コンサルタントに聞いて欲しいという気持ちから、言葉に詰まってしまうこともまだ見られる。実地研修については、現場で見て学ぶことができ、専門的法人の方が根拠を説明しながら支援をしてくれている。研修後はモチベーションが上がり、少しすると下がることの繰り返しではあるが、アセスメント力も上がっているのではないと思う。

実践報告会の影響も大きく、自身の言葉で伝える練習となったほか、様々な意見をもらえるとともに、他の職員の理解促進にもつながった。残り 1 年、他事業所に広げていく意識をするように進めている。

〈意見交換・質問等〉

- ・（委員）アーカイブで実践報告会を視聴した。行けなかったことが残念で、支援が進んでいると感じた。課題が出た際に、職員自身で考え、応用できるようになってきているのが良い傾向だと思う。法人内でも報告会を開催されたとのことだが、法人内での広がりについて変化があれば教えてほしい。
- （委員）法人内で関心が向けられており、コアメンバーに対して自事業所の利用者を見て欲しいという声は出るだろう。先述のケースのように、現場で焦りが出てきた際に出番かと思う。今回の取組も自信はなかったが、コンサルタントにも報告し、本人にとって分かりやすい形でできれば良いのではないかと意見をもらい、達成感につながった。
- （委員）コンサルタントに相談している以外のケースにも、応用することができている。
- （委員）対象の利用者がいるグループには広がっているが、法人全体にはこれからの段階。

2. 次年度のスケジュールについて 資料 3

（事務局）資料 3 に沿って説明。事業の進捗管理、体制整備を引き続き行う。令和 9 年度予算要求が必要となることも想定して、部会は早めの時期に予定。アンケート等の評価は 10 月、3 月の部会で実施予定。

3. 体制整備に向けて 資料 4

（事務局）これまでの議論整理と、今後に向けた方向性について、資料 4 に沿って説明。
R8 年度は実地研修として、コンサルテーションの技術や助言方法等を学ぶため、コンサルテーションへの同行を実施するほか、3 法人による事例検討会や法人内での支援ツールの作成研修も予定している。
今後の堺市の強度行動障害支援体制イメージ図は、いただいた意見をもとに前回の部会から修正した。目的や国の指針を追記し、本人を中心に据えた。
令和 8 年度第 2 回部会を目標に、事業展開方針を固める予定。

〈意見交換・質問等〉

- ・（専門的法人）令和 8 年度のスケジュールは 4～5 月から開始予定。実地研修のうち 1 回は、参画法人合同で、1 ケースずつ出し合って事例検討会をしようと考えている。「コンサルテーションとは」という講義も入れたい。その後、とれとれ研修も開催したい。また、他法人のコンサルテーションに同行し、場合によっては自分たちからも質問するような機会を作る。法人間の交流にもつながる。将来的には、参画法人でペアを組み、コンサルテーションへ行くことも良いかと考えている。
- ・（専門的法人）コンサルタントとして、コアメンバーと話をしてどこまで進めていけるか調整していきたい。
- ・（委員）報告会を聞いて、このような場が大切なのだと感じた。利用者目線は基本中の基本で浸透していかねばならないと考える中で、コアメンバーのモチベーションを保ち、現場職員の支援がこれで良いのかを客観的に担保してもらえるような体制が必要。資料 4 の P4 について、質的向上の仕組みとして、他法人同士での事例検討や勉強会など、法人間で共有できる仕組みがあれば良いかと思う。「質的担保の継続」などの文言が入れば良い。
- ・（部会長）取組後のチーム体制の構築が重要だと思う。

- ・（委員）報告会が非常に良かった。報告会後にコアメンバーが交流していたのが良かったので、来年度に合同で事例検討を開催予定との話を聴き、良い考えだと思った。期待も大きいところではあるが、2年目を終えた課題として、特性理解が進んでいるにも関わらず手順書に落とし込めていない点が気になった。
→（専門的法人）特性を理解して、強みに変換し、支援にどう活かすか。PDCA サイクルを回せるまでに時間がかかる。ご指摘の点については、次年度で取り組みたい。法人を超えたチームワークを作りたい。
- ・（部会長）資料のイメージ図について、重度障害のある方の暮らしをどう支えるかという点で、地域生活支援部会とも関連のある話なので、地域生活支援拠点等についても記載してはどうか。

4.その他

令和8年度第1回強度行動障害支援部会 開催日程

令和8年5月～6月頃